

〔防災・まちづくり+観光〕

「神戸発:日常的にも活用される津波避難情報板を企画する」
来街者への安全・安心のおもてなし。

「津波避難サイン」
兵庫県神戸市

神戸市では、東日本大震災以降、津波による浸水が想定される沿岸部・都心部における津波避難情報発信・啓発の取り組みを進め、平成26年8月には、この一環として「津波避難情報板(鳥瞰図)」を、来街者の多い駅周辺に設置しました。この情報板には、浸水想定区域および避難行動のための情報収集方法や、より早く、より高い所への移動のご案内などが掲載されています。今回、神戸市危機管理室、市民参加によるゼミなどを主催したデザイン・クリエイティブセンター神戸、NPO法人プラス・アーツの方にお話をお聞きました。



▲「キリン」と呼ばれる案内サインは、都市部はダークグリーンとブラウン、沿岸部はブルーに。
▼神戸市が2008年、ユネスコ創造都市ネットワークデザイン都市に認定されたマークです。



『神戸の都心部を安心して楽しんでいただきたい』



神戸市 危機管理室 中原氏(写真中央)、NPO法人プラス・アーツ 室崎氏(右)、株式会社コトブキ 荻田(左)がお話を伺いました。

神戸市ならではの津波避難情報板が誕生。「津波避難情報板」を「防災」の観点だけでなく、「まちづくり」や「観光」の観点からも考える、という取り組みについてお聞きします。

(中原氏) 今回のプロジェクトの起点は、兵庫県が、東日本大震災の教訓を踏まえ、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定を公表したことです。これまでの想定された津波では神戸市都心部といわれる所には浸水がないと思われていたのですが、今回浸水想定域内に入ってきました。都心部となりますと観光目的など地理に不案内な方も多く、来街者の方々に情報発信などの取り組みが必要ですので、非常に大きな話となります。

さて、神戸市は、ユネスコに認定され「デザイン都市・神戸」を推奨している中で、私共は「デザイン・クリエイティブセンター神戸」と連携し、「+クリエイティブゼミ」での市民参加の検討を経て、「防災・まちづくり+観光」という企画を進めるとともに、都心部のまちづくり団体や事業者の方々、学生さんなどに、ご意見をいただきながら検討を進めました。



「+クリエイティブ」ゼミの様子

「デザイン・クリエイティブセンター神戸」と市民の皆さんで情報板を作る企画ですね。

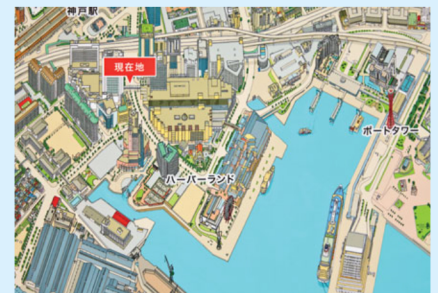
(室崎氏) デザインによって社会的な課題を解決していくことです。このプログラムにゼミ形式の「+クリエイティブゼミ」があり、市民が少人数ごとにディスカッションを重ねることで、プランを現場に反映しようというものです。

さて、津波避難情報板の設置をしたいという課題から、市民参加を一般に公募して、25名の方に参加していただきました。市の危機管理室からの意見をはじめ、ゲストレクチャーや中間発表などを重ね、計14回に渡ってゼミを行いました。私は、NPO法人プラス・アーツに所属しており、防災のイベントなどにも参画していますが、今回は来街者の方々に強く意識することによって難しい課題ではありました。何故なら、いわゆる津波の情報板として、浸水域が表示されているだけでは、来街者の方や観光で訪れた方々には見ていただけないのではないかと…。そうした意見が多く聞かれたからです。

ゼミの中では、さまざまアイデアが次々に出されましたが、ちょうどその頃、ニュースでも取り上げられていた「鳥瞰図絵師の青山大介氏の作品はどうか」という声が上がリ、全体デザインの検討とともにゼミが重ねられました。そして、最終的に、青山氏に、手描き鳥瞰図の使用をお願いすることとなりました。

(中原氏) 青山さんは神戸在住の方ですが、

神戸の鳥瞰図は3年をかけて完成させたという、街への思いが込められた作品です。結果としても来街者の方々はもちろん、小さな子ども達をはじめ、ご家族で地図に入っている姿をよく見かけます。嬉しいですね。



青山大介氏による手描き鳥瞰図

まさに、神戸オリジナルと言える情報板です。そして「誰のために」ということが明快なので、メッセージがしっかり伝わります。

コトブキとしましては、美しさ、耐久性の高さとともに、街なかでの設置ということで、イタズラ等にも強い素材をご提案しました。

(中原氏) それぞれの思いが重なって、実現した情報板だと言えますね。デザイン都市らしく、デザインの力を加えることで発信力も高まりました。(室崎氏) 新しく来た方々に、防災情報を伝えることで、「安全・安心のおもてなし」を街ぐるみで実践していくきっかけができたと思います。

そして、これからの防災についての将来的ビジョンまでと、熱い思いが語られました。これからの神戸にご期待ください。



危機管理室では、これからも、さまざまな地元団体や多くの市民の皆さんとの連携を深めて、実際に地震や津波がきた際にどうしたことができるかなどの議論を進めています。

神戸市危機管理室
計画担当
中原 大輔 氏



プラス・アーツは、教育、まちづくり、防災、環境、観光などの分野において、既存概念にとらわれない創造力を導入し、課題解決を目指しています。

NPO法人プラス・アーツ
チーフ
室崎 友輔 氏